

令和3年度 第1回 長野市商工振興・雇用促進審議会 概要

【日時】 令和3年6月30日（水） 午後1時30分から午後2時50分まで

【場所】 長野市役所第一庁舎5階 庁議室

【出席者】 委員11名（2名欠席）、事務局12名

【傍聴者】 2名

【報道関係者】 1名

1 開会

2 委員委嘱

3 商工観光部長挨拶

本審議会は、商工業の振興並びに雇用の促進に関する事項について、委員の皆様の専門的な知見を伺うとともに、3つの分野の相乗効果を高めるため横断的な審議をお願いするものである。

本日の審議会では、現行の長野市商工業振興・雇用促進計画の進捗状況を確認いただくとともに、今年度策定を予定している、次期長野市商工業振興・雇用促進計画の策定に向けて審議いただきたい。

委員の皆様には、各事業の取組内容や実績を確認いただき、ウィズコロナ・アフターコロナ・SDGs など新たな視点も踏まえ、次期計画に向けた今後の取組等について、それぞれの専門の立場から、忌憚のない意見をお願いしたい。

4 審議会委員の紹介

5 会長及び副会長の選出

越原委員から事務局案を求められ、事務局から会長に北村委員を、副会長に天野委員を推す案を説明。全会一致で事務局案が承認された。

6 議事

(1) 長野市商工業振興・雇用促進計画の進捗状況について

「資料1」により事務局から説明

【質疑等】

特になし

(2) 次期計画策定について

「資料2」、「資料3」、「資料4」により事務局から説明

【質疑等】

A委員：次期計画策定の方針に、「長期戦略2040」、「SDGsの要素を計画に取り入れ課題解決に足下から取組む」と記載されているが、具体的にどのように盛り込む予定なのか。

事務局：長期戦略2040は、豊かな自然の循環と経済の発展を両立させる長野らしい世界に誇る「産業」創造で、平均所得を倍増することを目標に掲げている。現在、外部人材を活用するなどして、具体的な取組に着手している。その上で、長期戦略2040が、次期計画のどこに該当するのだが、基本方針②「地域の特性が光る商工業の推進」にある、中小企業のDX推進などや、基本方針③「新たな活力につながる産業の創出」のスタートアップ・エコシステムの形成支援、新産業の創出・育成といった取組が主に関係してくると考えている。またSDGsに関しては、長野市はSDGs未来都市に選定され、新たな視点で持続可能な取り組みを進めていく予定である。基本方針①「商工業の基盤強化と環境整備の促進」、基本方針②「地域の特性が光る商工業の推進」は現在の環境を整備・支援すること、先端技術の導入を支援することで持続可能となる基盤を強化していくことに繋がり、基本方針③「新たな活力につながる産業の創出」は持続可能を高める新産業の創出に繋がる。基本方針④「就労の支援と多様な働き方の支援」は、市民の雇用機会の創出にも繋がり、このようにSDGsは全体に関わるものであるため、具体的にどの方針にSDGsの要素が盛り込まれているかを明言することはできない。

B委員：持続可能な社会づくりに向けた取組みの広がりがある中で、具体的には、環境に対する配慮や、防災対策が重要だと考える。その上で、骨子案に防災という言葉がないが、そういった視点も取り入れた方が良いのではないか。

事務局：防災の視点というのは、大きな災害を受けた長野市にとっては一つの重要なテーマとなっている。その上で、頂いた意見を参考に、どのような支援ができるか、また、計画にどのように表現し反映させるかも含めて、今後研究していきたい。

C委員：これからDXは重要なテーマになると考えられ、会社の中でDXを推進していくためには、中から人材を育てていくことや高等教育機関へのリカレントが重要な要素の一つとなるのではないか。そのような視点についても検討

してほしい。また、SDGs の動向だと、先ほど防災にもあったように、市民参加型という視点も必要ではないか。そのような観点で、例えば NPO などから逆に産業になっていく、そんな流れもあるのではないか。

事務局：人材育成の話についてだが、企業の中で、スキルアップをどのように図るかは一つのテーマだと考えており、検討しているところである。そのような中で、企業の皆様にどのような取組を促していけるか、また高等教育機関の皆様についても、信州大学が新たな学部を検討するような、デジタルに関する動きが出てきていることも承知しており、そういった方々とも連携を取りながら、いい施策が生まれるよう更に研究して参りたい。

事務局：SDGs の観点についてだが、長野市は幅広いアプローチによる SDGs 未来都市に関する取組も行いながら、DX に関連するものとして、スマートシティに関する取組も考えており、具体的にどのように取り組んでいくかは検討しているところである。デジタルを活用し、市民や NPO などそれぞれの担い手を巻き込みながら、様々な産業を盛り上げていく取組みを考えている。そこでこれらの人々と連携しながら取組むことも視野に入れ、可能な限り計画の中で記載できる形で検討したい。

D 委員：若い世代の豊かさの定義が変わりつつある中で、長期戦略 2040 が目材している所得倍増ということは、そういった世代に全く響いていない状況である。今の若い世代は、柔軟なスタイルで働きたいという願望が非常に強く、産業の分野が問題なのではなくそういった働き方ができるまらに行きたいと考えている。そのため、「柔軟な働き方」の具体的な実現方法について、もう少しはっきり落とし込んでもらいたい。また、副業という単語についても盛り込んだらどうか。さらに、SDGs の切り口だとジェンダーなど多様性についても非常に重要だと思う。DX については、今後は全員が当たり前知っている内容になると思うので、計画の中にも、デジタルをベースとしたサービス業をバックアップできるような視点も取り入れてほしい。

事務局：豊かさの定義が変化する中で、若者には柔軟なスタイルでの働き方が求められているが、すべての社会がそういった働き方を求める形で動き出さないと、企業の雇用環境を変えていくことについては様々なハードルがあると思う。内容を検討した上で、可能な限りそのようなスタイルが実現できる社会を目指す方向性の計画でありたいと思っている。事務局としても、多種多様な考え方を持っている若者が非常に多く、将来についてどのように考え

るかが世代によって変化していることは十分認識している。そのような中で、次期計画にどのような表現を付け加えていくことができるか、なかなか難しいところではあるが、そういった視点は忘れずにこれから検討していきたい。

D委員：難しいことだとは思いますが、大きく社会が変化している中で、行政としてなすべきことをもう少し検討いただきたい。つまり、市が向かっていくビジョンを示すことが重要であり、ビジョンは価値観に裏打ちされている。今まで蔑ろにされてきた価値観を引き上げることや、先程の内容も取り込めるような方向で考えていただきたい。それが事業者にとっても支援となると思う。

事務局：頂いた意見を参考に今後計画の素案案を検討していきたい。

会長：委員の皆様からいただいた意見の中には厳しい意見もあり、行政の立場で出来るかどうかということもあるが、頂いた意見をある程度は網羅した形で、計画を立てていただきたい。

7 その他

事務局：次回の審議会は、次期計画の素案案について審議するものとし、9月頃開催する予定としたい。

8 閉 会